

ファッション業界人物列伝

「あの時、私は…」

File.10

IMA代表取締役/
元西武百貨店社長

水野誠一

Seiichi Mizuno

第1話

好きなことをやり続ければ 結果として成功する

バブル経済に踊った1980年代の日本で、百貨店業界はファッションをはじめ消費文化の担い手として、わが世の春を謳歌した。三越、高島屋といった呉服系老舗百貨店に対して、新しいタイプの文化創造型の流通グループとして台頭したのが西武百貨店とパルコを中核にしたセゾングループだった。その総帥だった堤清二氏(1927-2013)はすでに他界してしまった。また堤氏の高校(旧十中、現都立西高)時代の同級生で堤氏の誘いで西武百貨店に入社し、その後セゾングループ傘下でパルコを独自のファッションビルに育てた増田通二氏(1926-2007)もすでに鬼籍に入った。その後、バブル経済の後始末という形で日本は「空白の20年間」を過ごしたわけだが、無残にもセゾングループは解体され、そのほとんどは他の大企業に吸収されてしまった。辛うじて、形を残して堤清二の志を伝えているのは「無印良品」ぐらいではないのだろうか。歴史家のトーマス・カーライルは「歴史とは英雄の墓場である」と述べているが、80年代流通業界のヒーローだった堤や増田の死を思うとその感は深い。堤清二のもとで80年代の西武百貨店の舵取りをした水野誠一元社長に登場してもらい当時を振り返っていただいた。百貨店の黄金時代だった80年代とは一体、何だったのか。

三浦: お久しぶりです。代官山からオフィスをこちらに移されたんですね?

水野: 代官山に18年間オフィスを構えていたんですが、隣に蔦屋書店が建てたので、隣に蔦屋書店が建てたので、2年半前にこっち(赤坂)に引っ越しました。ここは静かでいいですね。前のオフィスには10人ぐらいスタッフがいたんですが、ここは僕と2、3人のスタッフだけです。

三浦: 今はどんなお仕事をなさっている

んですか?

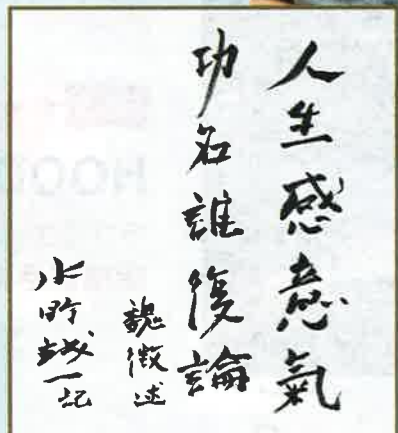
水野: 4社の社外取締役といろいろなコンサルティングです。

三浦: 日本企業ですか?

水野: 社外取締役をやっている4社は日本企業です。海外では中国・広州とインドの2つの企業でアドバイザーをしています。中国企業の方はファッション企業で、最初はファッション関連の仕事を頼まれたのですが、オーナーが本屋に興味を持っていて、広州と成都に大型書店を作って有名になりました。



水野氏が昨年上梓した最新著作「常識のススメ」。今までの常識を一度疑ってみることを提唱する



三浦: CCCの増田(宗昭)さんみたいなお方ですね(笑)。

水野: そうですねえ。そういえば増田さんからも、セゾングループが手掛けていたLOFTやリブロ、WAVEみたいな文化事業をやりたいが……という相談がありましたね。

三浦: ほう、増田さんがレンタルビジネスの次を模索していた時期ですね。どんなアドバイスをされたんですか?

水野: もうけようと思ってやっても絶対に成功しない。好きなことをやり続ければ結果として成功するんじゃないかと話しました。

三浦: ほう、禅問答みたいですね(笑)。

水野: それで代官山 蔦屋書店のプロジェクトがスタートしたわけです。私もそのコミュニティメンバーの一人でした。結果として、あそこは成功でしたね(笑)。



PHOTOS BY SHUHEI SHINE

PROFILE: 1946年7月8日生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。西武百貨店社長、慶應義塾大学総合政策学部特別招聘教授を経て、95年参議院議員。同年、(株)インスティテュート・オブ・マーケティング・アーキテクチャ(略称:IMA)設立、代表取締役就任。ほかにパルス、オリコン、エクコムグローバル、UNIなどの社外取締役を務め、文化活動として、日本デザイン機構会長、一般社団法人日本文化デザインフォーラム理事長、一般社団法人Think the Earth理事長など。「静岡県は大丈夫か?」(野草社)、「時代はアナロジー」(主婦の友社)など著書多数

三浦: インドの企業ってどういう企業ですか?

水野: 20年来の友人がオーナーの財閥系の企業グループなんですが、8年ほど前からインドでコンビニをやりたいんです。最初は日本のコンビニを導入したかったようですが、時期尚早ということで日本から出店する企業が見つからなかった。見よう見まねで自ら始めたんですね。でも、肝心なところが分からないのでなかなか大きくなれない。それで、私が日本のコンビニOBが経営するコンサル会社を紹介しました。今は40店舗ですが、1、2年のうち300店舗を目指しています。

三浦: 4社の社外取締役ですから毎月4社の取締役会には出席するわけですね。それと中国企業、インド企業のアドバイザーですから、これはかなりお忙し

いですね。

水野: はい、他に複数の国内プロジェクトにも関わっていますから、西武時代よりはるかに忙しいかもしれません(笑)。

三浦: 大学でも教えられてましたね?

水野: 慶應SFCで教えていました。これはもっと続けるつもりだったのですが、参議院に立候補することになって、議員と教授は兼任できない内規だったので1年で終わってしまいました。議員退任後、今度は立教の大学院で4年間教えました。時間の束縛も多くて、本業に支障が出たので辞めさせていただきました。

三浦: 静岡県知事に立候補するので参議院議員をお辞めになったのでしたね。どうして2001年知事選に出馬されたのでしたっけ?

水野: 父(成夫)がかつて誘致した浜岡の原発を稼働停止させるためでした。活断層にかこまれている原発なので、東海地震が起きたらまず倒壊が避けられない。とにかくその前に停止しなければならぬ。ただし国

政では、首相でも止められない。唯一停止させられるのは首長たる知事だけなんです。それともう一つのテーマは静岡空港の建設反対でした。

三浦: 原発事故の方は浜岡ではなくて、福島で現実のものになりましたね。

水野: はい。しかしもう一方の静岡空港の方は、現在は中国からのLCCを受け入れているために、私の予想に反して爆買いの中国人の恩恵で成り立っているとは皮肉なものです(笑)。

三浦: 政治にはもう興味はないんですか?

水野: 与党の力が圧倒的で野党がバラバラという政治状況下では、力を発揮するのは難しいですね。最近ではむしろ女房(木内みどりさん)の方へ出馬要請がきて大変なようです(笑)。

(次号に続く。編集委員 三浦 彰)